



おのみ



令和4年度 12月号
志布志市立尾野見小学校

体験から出ることば

校長 宗岡 克英

4年生は、総合的な学習の時間に「世界中のしあわせ」というテーマで福祉についての学習に取り組んでいます。11月29日(火)には体育館で福祉体験学習を行いました。当日は、社会福祉協議会の2名の職員が来校し、高れい者の体の状態を体験することと実際に車イスに乗ってみる体験の指導をしてくださいました。この学習の目的は、介助する側とされる側の両方の立場を体験することによって、介助される側が安心して生活できるために何ができるかを子供達に考えさせることです。



まず、80歳ぐらいの高齢者の体の状態を疑似体験しました。子ども達は二人一組になり、一方の児童が、座っている児童にいろいろな装具を装着させ、負荷をかけていきます。4年生が体験する様子を見てみると私も体験してみたくなり、様々な装具を着けてみることにしました。

まず、両ひじ、両ひざの動きを制限するサポーターをつけます。ひじやひざのまげ伸ばしが自由にできなくなりました。次に、手首と足首におもりをつけました。思うように歩くことができません。さらに、背曲げ用エプロンを体の前につけます。腰がまがりずっと前傾姿勢のままです。

まだあります。視界ゴーグルを目に装着しました。視野が狭くなり視界が黄色っぽくなりました。例えて言えば、水中に潜り、水圧で体を思うように動かすことができない状態に近いでしょうか。

「これが80歳の体の状態なのか？」身体に負荷をかける装具を装着して初めて体感できる世界です。「視界が狭くて歩きにくいなあ。」「一日の生活がきつときついただろうなあ。」と子供達からも様々な感想がでできます。そして、子ども達は装着したままの状態パジャマを着ることに挑戦しました。しかし、一人ではなかなか着ることができません。介助が必要なことがじわじわと分かってきたようです。



次に車イスの乗車体験をしました。最近はいろいろな場所で車イスを見かけることは多くなりましたが、子ども達は、実際に乗ったり押したりする経験はあまりないようです。最初は、乗る方も押す方も恐る恐る発進しましたがすぐに慣れ、乗車や介助のコツをつかみました。車イスを押す側の児童から「押しますよ！」という声に乗っている側の児童にかけられました。社会福祉協議会の方がすぐに「素晴らしい声かけですね。その声かけがとても大切です。」と褒めてくださいました。車椅子に乗り、車椅子に乗る人の気持ちを知ることができたから出てきたことばだと思います。「押してくれる人がいないと大変だ。」

「私たちができることを積極的に自分から声をかけてやっていきたい。」「困っている人がいたら声をかけていきたい。」子ども達から様々な感想を聞くことができました。体験から出てくることばにはとても実感がこもっています。このようなことばが出てくる学びの場を大切にしていきたいと思います。学習の成果は、2月のおのみっ子フェスティバルで発表予定です。